

簿記原理（簿記入門）基本問題 解説

【問題 1】

貸借対照表のフォーム

(借方)	貸借対照表	(貸方)
資産	負債	
	純資産	

したがって問題文どおりに記入すると下記ようになります。

貸借対照表

(中村商店)

平成〇年 4 月 1 日

(単位：円)

資 産	金 額	負 債 及 び 純 資 産	金 額
現 金	50,000	買 掛 金	58,000
当 座 預 金	80,000	借 入 金	120,000
売 掛 金	78,000	資 本 金	?
建 物	970,000	/	
土 地	1,000,000		
	2,178,000		?

負債と資本の合計額は、必ず資産額に一致するようになっています。これを貸借対照表等式といいます。(資産 = 負債 + 資本)

資本の総額を求める算式もあります。これを資本等式といい、次のように表します。

$$(資 産 - 負 債 = 資 本)$$

これを「貸借平均の原理」といい、複式簿記が優れていると言われる一番の理由です。

したがって?の部分は(資産 - 負債 = 資本)になりますので

貸借対照表

(中村商店)

平成〇年 4 月 1 日

(単位：円)

資 産	金 額	負 債 及 び 純 資 産	金 額
現 金	50,000	買 掛 金	58,000
当 座 預 金	80,000	借 入 金	120,000
売 掛 金	78,000	資 本 金	2,000,000
建 物	970,000	/	
土 地	1,000,000		
	2,178,000		2,178,000

【問題2】

損益計算書のフォーム

借方)	損益計算書	(貸方)	(借方)	損益計算書	(貸方)
費用	収益	または	費用	収益	
当期純利益					当期純損失

したがって問題文どおりに記入すると下記ようになります。

損益計算書

(中村商店) 平成〇年4月1日から平成〇年4月30日まで (単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	240,000	売上高	474,000
給料	80,000	受取手数料	7,000
広告宣伝費	20,000		
旅費交通費	9,000		
消耗品費	10,000		
雑費	2,000		
支払利息	3,000		
()			
			481,000

経営成績とは、どれくらい儲けたか、どのように儲けたのかといった事で、収益と費用で表されます。収益から費用を差し引いたものが儲けになり次のような算式になります。

(収益 - 費用 = 儲け) 儲けのことを「当期純利益」と言います。

したがって()の部分は(収益 - 費用 = 儲け)になりますので

損益計算書

(中村商店) 平成〇年4月1日から平成〇年4月30日まで (単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	240,000	売上高	474,000
給料	80,000	受取手数料	7,000
広告宣伝費	20,000		
旅費交通費	9,000		
消耗品費	10,000		
雑費	2,000		
支払利息	3,000		
当期純利益	117,000		
	481,000		481,000

【問題3】

まずは損益計算書を作成します。

損益計算書

(益川商店) 平成〇年1月1日から平成〇年12月31日まで (単位:円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	260,000	売上高	553,000
給料	150,000	受取手数料	24,000
旅費交通費	23,000		
通信費	7,000		
水道光熱費	5,000		
消耗品費	4,000		
当期純利益	128,000		
	577,000		577,000

次に当期純利益を加えた期末の貸借対照表を作成します。

貸借対照表

(益川商店) 平成〇年12月31日 (単位:円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	38,000	買掛金	40,000
当座預金	40,000	借入金	70,000
売掛金	60,000	資本金	?
商品	80,000	当期純利益	128,000
貸付金	20,000		
土地	800,000		
	1,038,000		?

問題文に期中の資本の増減はなかった。とあるため借方と貸方の差額で

貸借対照表

(益川商店) 平成〇年12月31日 (単位:円)

資産	金額	負債及び純資産	金額
現金	38,000	買掛金	40,000
当座預金	40,000	借入金	70,000
売掛金	60,000	資本金	800,000
商品	80,000	当期純利益	128,000
貸付金	20,000		
土地	800,000		
	1,038,000		1,038,000

【問題 4】

簿記上の取引となるもの、ならないものを区別する問題です。

簿記上の「取引」とは、商店や企業が行うさまざまな活動のうち、資産・負債・純資産の3要素の各増減と費用の発生、収益の発生の合計5つの要素が変動する事象をいいます。

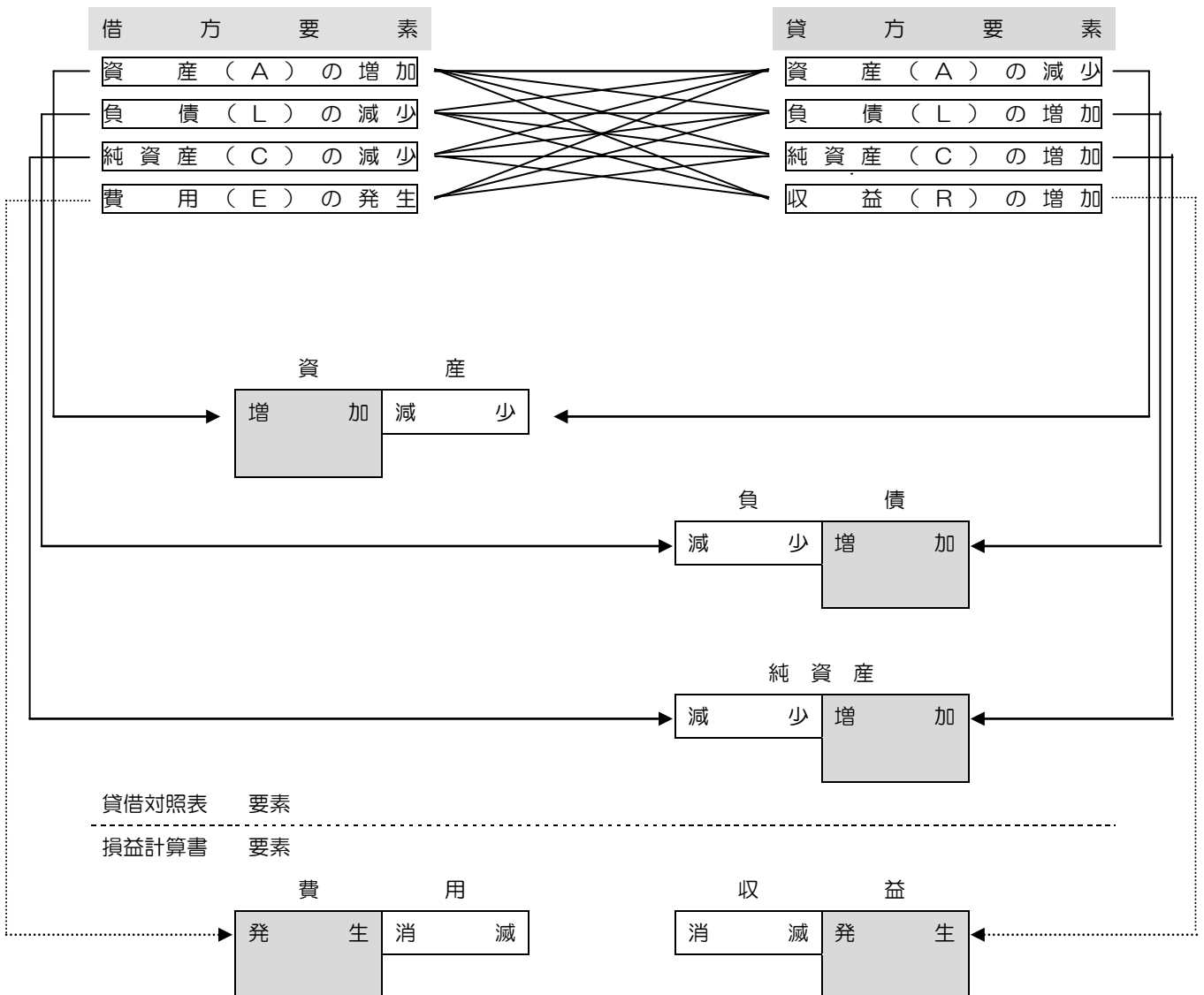
たとえば土地・建物を借りるという単なる「契約」や、商品を電話で注文するなどの「約束」は、資産・負債・純資産の増減や費用・収益の発生を伴うものではありませんので、簿記では「取引」として取り扱いません。

【問題 5】【問題 6】

簿記の対象となる取引は無数にありますが、資産・負債・純資産・収益・費用の5つの要素の組み合わせによって記録されます。五大要素はそれぞれ左右いずれかにホームポジションがあります。貸借対照表で、資産は借方、負債と純資産は貸方に表示されます。

損益計算書では、費用は借方、収益は貸方に表示されます。つまり、資産は借方、負債と純資産は貸方がホームポジション。同様に、費用は借方、収益は貸方がホームポジションになります。

〈仕訳・勘定記入法則〉



【問題 7】

企業の経営活動の中から、簿記上の取引を選び出しこれを分析し、帳簿に簿記上の勘定科目と金額で記帳すること。この一連の作業を仕訳といいます。仕訳は、借方・貸方の両方に勘定科目と金額を記入します。この時、借方・貸方の双方の金額は必ず一致します。

仕訳の手順

- ① 簿記上の取引であるかの判断
- ② 勘定科目を決定する
- ③ 取引の分析を行う
- ④ 金額を決定する

(1) 現金¥900,000 を元入れして営業を開始した。

- ① 資産の増加、純資産の増加
- ② 現金、資本金
- ③ 現金の増加のため借方、純資産の増加のため貸方
- ④ 問題文どおり ¥900,000

(2) 銀行から現金¥500,000 を借り入れた。(利息は考えなくてよい)

- ① 資産の増加、負債の増加
- ② 現金、借入金
- ③ 現金の増加のため借方、負債の増加のため貸方
- ④ 問題文どおり ¥500,000

(3) 商品¥300,000 を仕入れ、代金は現金で支払った。

- ① 費用の発生、資産の減少
- ② 仕入、現金
- ③ 仕入の発生のため借方、現金の減少のため貸方
- ④ 問題文どおり ¥300,000

(4) 営業用のトラック 1 台(中古)を¥350,000 で買い入れ、代金は現金で支払った。

- ① 資産の増加、資産の減少
- ② 車両運搬具、現金
- ③ 車両運搬具増加のため借方、現金の減少のため貸方
- ④ 問題文どおり ¥350,000

(5) 事務用のボールペン・帳簿など¥3,000 を購入し、現金で支払った。

- ① 費用の発生、資産の減少
- ② 消耗品費、現金
- ③ 消耗品費の発生のため借方、現金の減少のため貸方
- ④ 問題文どおり ¥3,000

- (6) 商品¥190,000 を販売し、代金は現金で受け取った。
- ① 資産の増加、収益の発生
 - ② 現金、売上
 - ③ 現金の増加のため借方、売上の発生のため貸方
 - ④ 問題文どおり¥190,000
- (7) 商品¥200,000 を仕入れ、代金のうち¥50,000 を現金で支払い、残額は掛とした。
- ① 費用の発生、資産の減少、負債の増加
 - ② 仕入、現金、買掛金
 - ③ 費用の発生のため借方、現金の減少のため貸方、買掛金の増加のため貸方
 - ④ 仕入¥200,000、現金¥50,000、買掛金¥150,000
- (8) 商品を¥320,000 で販売し、代金のうち¥200,000 を現金で受取り、残額は掛とした。
- ① 資産の増加、収益の発生
 - ② 現金、売掛金、売上
 - ③ 現金の増加のため借方、売掛金の増加のため借方、売上の発生のため貸方
 - ④ 現金¥200,000、売掛金¥120,000、売上¥320,000
- (9) 従業員の給料¥200,000 を現金で支払った。
- ① 費用の発生、資産の減少
 - ② 給料、現金
 - ③ 給料の発生のため借方、現金の減少のため貸方
 - ④ 問題文どおり¥200,000
- (10) 売掛け代金¥120,000 を現金で受取った。
- ① 資産の増加、資産の減少
 - ② 現金、売掛金
 - ③ 現金の増加のため借方、売掛金の減少のため貸方
 - ④ 問題文どおり¥120,000
- (11) 買掛け代金¥150,000 を現金で支払った。
- ① 負債の減少、資産の減少
 - ② 買掛金、現金
 - ③ 買掛金減少のため借方、現金の減少のため貸方
 - ④ 問題文どおり¥150,000

(12) 電話代¥20,000 を現金で支払った

- ① 費用の発生、資産の減少
- ② 通信費、現金
- ③ 通信費発生のため借方、現金の減少のため貸方
- ④ 問題文どおり¥20,000

【問題 8】

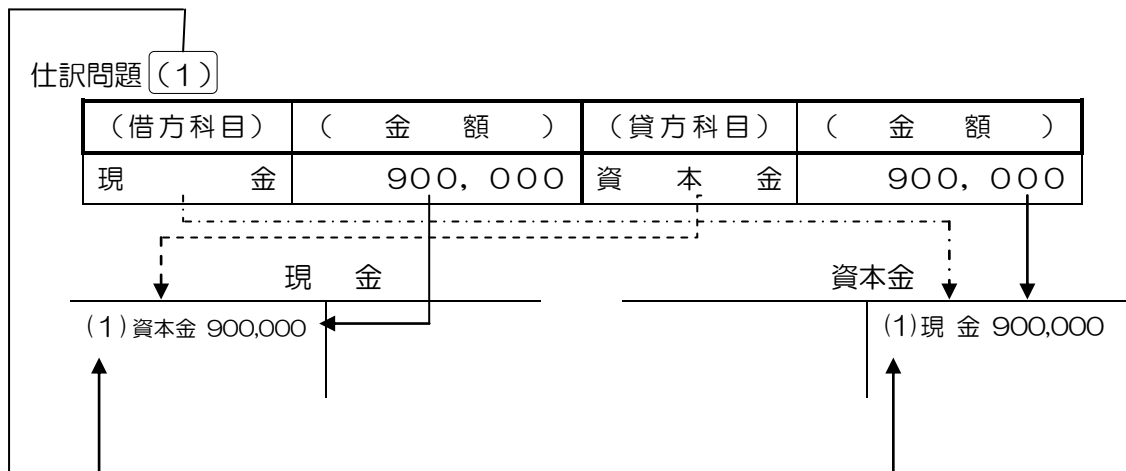
転記とは、仕訳によって借方、貸方に分けられた取引を各勘定科目ごとに集計することを言います。

仕訳で借方にある勘定科目、貸方にある勘定科目をそれぞれの勘定口座の同じ側へ、日付、相手勘定、金額を書き写します。相手勘定とは、借方、貸方それぞれの反対側にある勘定科目のことをいいます。

それぞれの勘定に記入されている勘定科目は、相手勘定すなわち仕訳の反対側の勘定を記入します。下記に例がありますが、現金勘定なら資本金、資本金勘定なら現金となります。これは、相手勘定を記入することによって現金が増えた理由、資本金が増えた理由を分かるようにするためです。

相手勘定が2つ以上あった場合は、相手勘定を記入するのではなく諸口とします。

T 勘定 (フォーム) への転記



【問題 9】

仕訳から転記までの問題です。問題 7・問題 8 の解説を参照ください。

【問題 10】

仕訳帳は、取引を仕訳して発生順（日付順）に記録する帳簿のことをいいます。

仕訳帳の記帳方法ですが

- ① 日付欄 日付の項目に取引が行われた日付を記入します。
- ② 摘要欄
 - 1) 勘定科目はカッコをつけて記入します。
 - 2) 借方を左揃えに、貸方を右揃えに記入します。
 - 3) 勘定科目は借方を先に記入し、1行下に貸方を記入します。
- ・ 勘定科目が2つ以上ある場合は、勘定科目の上に諸口と記入します。
 - 1) 諸口はカッコをつけない
 - 2) 貸方側が諸口の場合は、借方側の勘定科目と同じ行に諸口を記入します。
- ・ 勘定科目の下に取引の内容を説明するための小書きを記入します。
- ③ 元丁欄 転記を行った際の総勘定元帳のページ数を記入します。
- ④ 借方欄 金額を記入します。
- ⑤ 貸方欄 金額を記入します。

5/ 1 現金¥900,000 を元入れして営業を開始した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	900,000	資本金	900,000

仕訳帳						1 ←
日付	摘要	元丁	借方	貸方		
5	1 (現金)	1	900,000			
	(資本金)	6		900,000		
	現金を元入れして営業を開始					

①取引日

②勘定科目、取引概要（小書き）の記入

④⑤取引金額を記入

仕訳帳のページ数

③ 仕訳を総勘定元帳に転記した際に、その勘定口座のページ数・口座番号を記入。

【問題 10A】【問題 10B】

総勘定元帳とは仕訳帳のすべての取引を勘定ごとに記録する帳簿のことをいいます。残高の表示欄のある「残高式」が一般的で、科目ごとにページをきめ、仕訳帳から科目別に転記します。

元帳には勘定科目ごとに記入をしていきますが、仕訳帳の借方を元帳のその科目の借方へ、仕訳帳の貸方を元帳のその科目の貸方へ金額を転記し、残高を記入します。残高は、例えば現金などの資産の科目は借方がホームポジションなので、借方－貸方＝残高となります。また、借入金などの負債の科目は貸方がホームポジションなので、貸方－借方＝残高となります。

摘要欄には、仕訳の相手科目を転記します。また、相手勘定が複数ある取引の場合は、諸口と記入します。仕訳帳と総勘定元帳とは相互に照合できるように、「仕訳帳」には元丁欄、「総勘定元帳」には仕丁欄があり、それぞれのページ数を記入します。

総勘定元帳への転記方法ですが

- ① 元帳のページ数を記入します。
- ② 日付欄は、仕訳帳に記入されている日付を記入します。
- ③ 摘要欄は仕訳を行った時の、相手勘定科目を記入。相手勘定科目が2つ以上ある時は、「諸口」と記入します。
- ④ 仕丁欄は、転記の元となった仕訳帳のページ数を記入します。
- ⑤ 借方欄は仕訳帳の借方の金額を記入し、貸方欄には仕訳帳の貸方の金額を記入します。
- ⑥ 「借/貸」欄は残高式だけで、残高が借方の場合は「借」、残高が貸方の場合は「貸」となります。
- ⑦ 残高欄は借方と貸方の金額の差額を残高として記入します。

総勘定元帳 (標準式)

現金 1

平成 〇年	摘要	仕 丁	借 方	平成 〇年	摘要	仕 丁	貸 方		
5	1	資本金	1	900,000	5	4	仕入	1	100,000
	25	売上	//	180,000		16	備品	//	360,000
						19	貸付金	//	200,000
						30	諸口	//	65,000

総勘定元帳 (残高式)

現金 1

平成 〇年	摘要	仕 丁	借 方	貸 方	借又 は貸	残 高	
5	1	資本金	1	900,000		借	900,000
	4	仕入	//		100,000	//	800,000
	16	備品	//		360,000	//	440,000
	19	貸付金	//		200,000	//	240,000
	25	売上	//	180,000		//	420,000
	30	諸口	//		65,000	//	355,000

【問題 11】

試算表は、総勘定元帳の科目ごとの合計または残高を集計した一覧表で、間違いなく転記されたかどうか、貸借一致を確認します。決算手続きを円滑にするため、決算のときには必ず作成します。

合計試算表、残高試算表、合計欄と残高欄のある合計残高試算表があります。

合計試算表は、元帳の各勘定の借方・貸方を単純に転記したものです。借方合計欄と貸方の合計欄が一致しなければ、転記に誤りがあります。

残高試算表は、元帳の各勘定の残高を集計してまとめたものです。

そして、合計欄と残高欄があるのが合計残高試算表です。

いずれも貸借平均の原則で借方残高と貸方残高の総合計は一致しますので、転記ミスを検証できます。

- ① まずはT勘定を参考にして合計欄に金額を記入します。

合計残高試算表

平成〇年 12月 31日

借 方		元 丁	勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計			合 計	残 高
	5,400,000	1	現 金	2,350,000	
	3,100,000	2	売 掛 金	900,000	
	350,000	3	備 品		
	1,500,000	4	買 掛 金	1,600,000	
	200,000	5	借 入 金	1,000,000	
		6	資 本 金	3,500,000	
		7	売 上	3,100,000	
	1,600,000	8	仕 入		
	230,000	9	給 料		
	62,000	10	支 払 地 代		
	8,000	11	支 払 利 息		
	12,450,000			12,450,000	

② 合計記入後、残高を記入します。

現金でしたら借方 5,400,000－貸方 2,350,000＝借方に 3,050,000 と記入をします。

合計残高試算表

平成〇年 12月 31日

借 方		元 丁	勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計			合 計	残 高
3,050,000	5,400,000	1	現 金	2,350,000	
2,200,000	3,100,000	2	売 掛 金	900,000	
350,000	350,000	3	備 品		
	1,500,000	4	買 掛 金	1,600,000	100,000
	200,000	5	借 入 金	1,000,000	800,000
		6	資 本 金	3,500,000	3,500,000
		7	売 上	3,100,000	3,100,000
1,600,000	1,600,000	8	仕 入		
230,000	230,000	9	給 料		
62,000	62,000	10	支 払 地 代		
8,000	8,000	11	支 払 利 息		
7,500,000	12,450,000			12,450,000	7,500,000

【問題 12】

勘定残高から残高試算表を作成する問題です。

まずはブランクの部分資産、負債、純資産、収益、費用の順に記入します。

	勘 定 科 目
資産	現 金
	売 掛 金
	貸 付 金
負債	備 品
	買 掛 金
	借 入 金
純資産	資 本 金
収益	売 上
	受 取 手 数 料
費用	仕 入
	給 料
	広 告 宣 伝 費
	支 払 家 賃
	雑 費
	支 払 利 息

その後残高を記入します。

残高試算表

平成〇年 12月 31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
1,900,000	現 金	
3,000,000	売 掛 金	
820,000	貸 付 金	
450,000	備 品	
	買 掛 金	1,420,000
	借 入 金	1,300,000
	資 本 金	?
	売 上	3,220,000
	受 取 手 数 料	60,000
2,700,000	仕 入	
800,000	給 料	
175,000	広 告 宣 伝 費	
120,000	支 払 家 賃	
5,000	雑 費	
30,000	支 払 利 息	
10,000,000		?

試算表の借方・貸方金額は必ず一致します（貸借平均の原理）。

したがって資本金の金額は借方・貸方の差額で算出します。

借方合計 10,000,000 — 貸方合計 6,000,000 = 資本金 4,000,000

借 方	勘 定 科 目	貸 方
1,900,000	現 金	
3,000,000	売 掛 金	
820,000	貸 付 金	
450,000	備 品	
	買 掛 金	1,420,000
	借 入 金	1,300,000
	資 本 金	4,000,000
	売 上	3,220,000
	受 取 手 数 料	60,000
2,700,000	仕 入	
800,000	給 料	
175,000	広 告 宣 伝 費	
120,000	支 払 家 賃	
5,000	雑 費	
30,000	支 払 利 息	
10,000,000		10,000,000

【問題 13A】

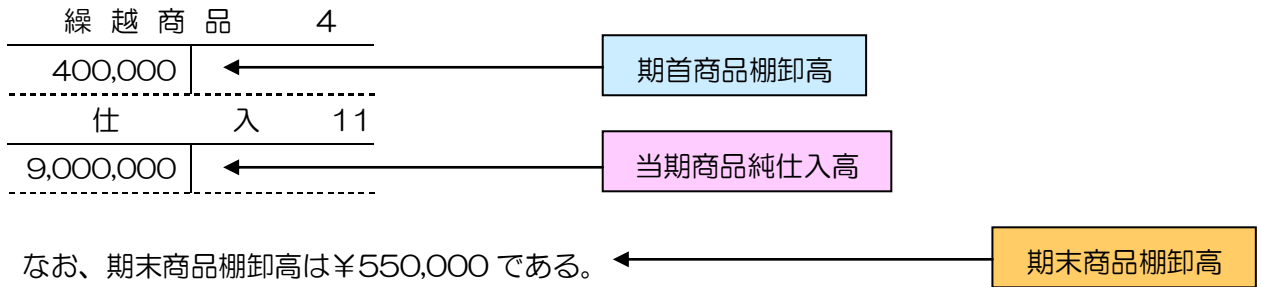
(1) 決算修正仕訳(決算予備手続)……ここでは「商品の修正仕訳」のみとあります。

商品の修正仕訳とは売上原価を算定するという事です。

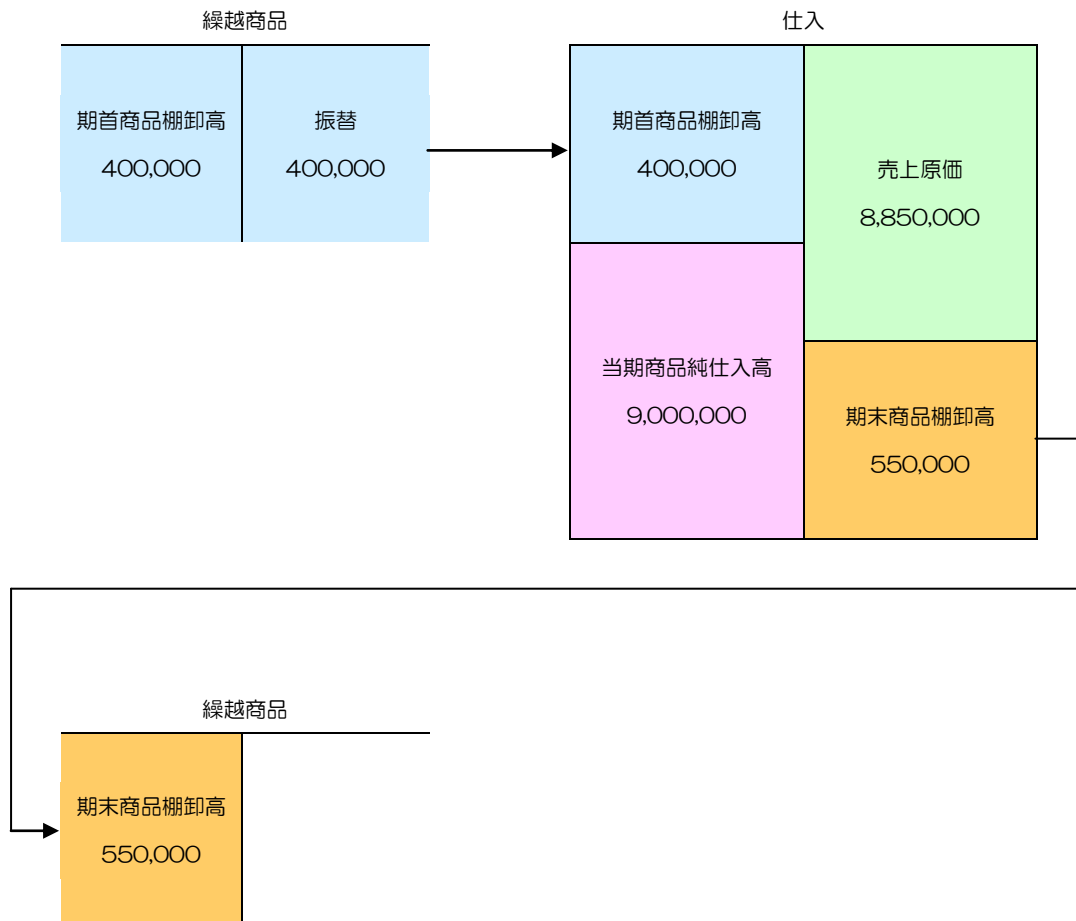
売上原価とは、売った商品を仕入れるのにかかった金額(コスト)です。売上に貢献した仕入の総額とも言えます。売上原価は、次の公式で求めることができます。

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品純仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

詳しくは決算を勉強するときに詳しく説明いたしますが問題の資料にある



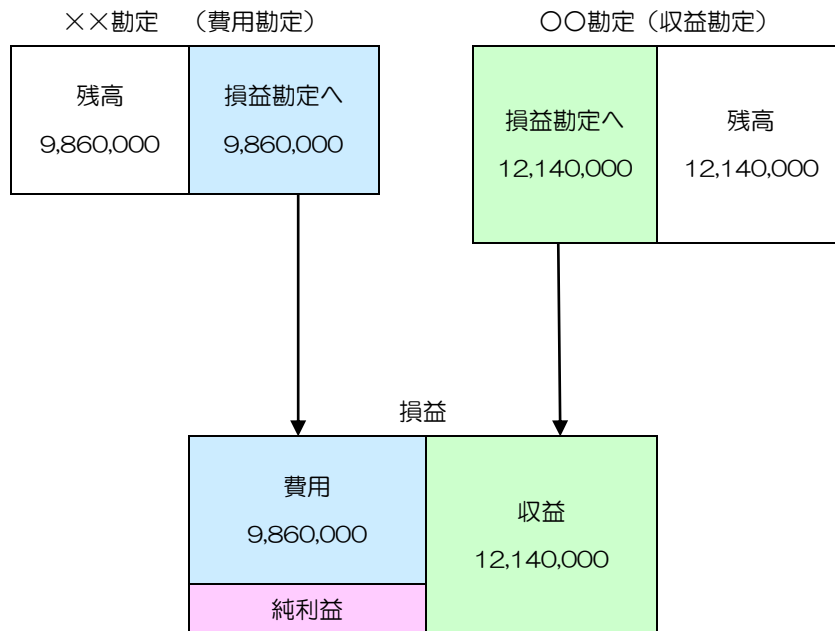
売上原価は、通常、仕入勘定に集めて計算します。仕入勘定は当期純仕入残高となっていますが、ここに繰越商品勘定より期首商品棚卸高を振替、期末商品棚卸高を差引くことで売上原価を計算します。



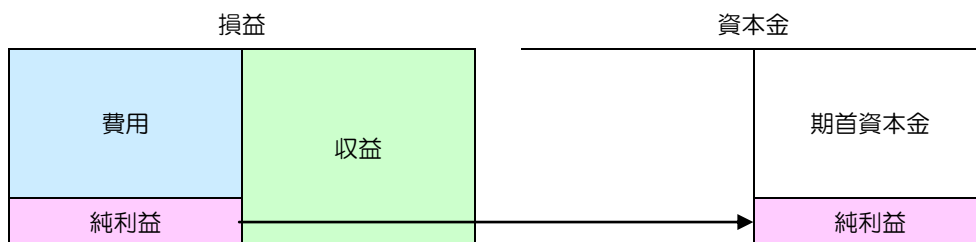
(2) 決算振替仕訳(決算本手続)

決算の予備手続による決算整理仕訳の結果、費用勘定、収益勘定は、費用または収益の内訳として、総勘定元帳に記録されています。決算本手続では、新たに損益勘定を設け、これらの収益と費用のすべての勘定残高をこの損益勘定に振替、会計年度における“純利益”または“純損失”を算出し、確定します。

この手続を損益振替手続といい、このとき行われる仕訳を“決算振替仕訳”といいます。



収益と費用の勘定残高が損益勘定に集められ、その残高（貸借差額）が純利益または純損失を示すこととなりますが、個人商店あるいは個人企業の場合は、これを資本金勘定に振替えます。この手続を資本振替手続といいます。



【問題 13B】

損益振替および資本振替が完了した後、最後に各帳簿で各勘定の締め切りを行い、当期と次期の区切りをつけます。この手続きを締め切りといいます。なお、この時、収益・費用の勘定と、資産・負債・純資産の勘定とで、手続きが異なります。

・収益・費用の締め切り

収益と費用の勘定は、決算振替仕訳で損益勘定へ振り替えられますので、これらの勘定の期末の残高はなくなっています。貸借それぞれの合計を記入して締め切ります。

締め切り方は合計線を引き、合計を計算して記入し、締め切り線を引いて終了です。一行しかなく合計計算をする必要がない場合は、合計線と合計記入は省略可能です。なお貸借の合計線のラインは一致させるようにし、できた空欄には斜め線を引きます。

・資産・負債・純資産の締め切り

総勘定元帳で借方または貸方に残高が残っていますが、これを締め切り、残高を翌期へ繰越します。繰越記入をし、続いて開始記入をおこないます。各勘定の残高のある反対側に残高の金額を記入し、赤で次期繰越と記入し、貸方・借方の合計金額を一致させて締め切ります。これを繰越記入といいます。次に、締め切り線の下に、次期の最初の日付で、次期繰越と記入した反対側に今度は黒で前期繰越と記入します。これは、次期における最初の残高を示すものです。これを開始記入といいます。このような締め切り方を英米式決算法といいますが、ほかに大陸式決算法というやり方もあります。

【問題 13C】

繰越試算表を作成し、その後貸借対照表と損益計算書を作成する問題です。

帳簿の締め切りによって、損益計算書科目はすべて損益勘定に集計されて0 となりますが、貸借対照表科目は残高が次期繰越となります。次期繰越では、勘定科目ごとに計算しますので、計算が間違っている場合でも、確認することができません。各勘定科目の次期繰越が合っているかどうかを確認するために、繰越試算表を作成します。

繰越試算表では次期繰越の借方科目の合計金額と貸方科目の合計金額は必ず一致します。繰越試算表は、次期繰越のある科目つまり、貸借対照表科目（資産・負債・純資産）のみが記載されます。

まずは繰越試算表の勘定科目を資産、負債、純資産の順に記入します。

繰越試算表

平成〇年 12月31日

元丁	勘定科目
1	現金
2	当座預金
3	売掛金
4	繰越商品
5	備品
6	買掛金
7	借入金
8	資本金

その後各勘定の次期繰越額を記入します。

繰越試算表

平成〇年 12月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
1,600,000	1	現金	
1,100,000	2	当座預金	
2,730,000	3	売掛金	
550,000	4	繰越商品	
7,000,000	5	備品	
	6	買掛金	1,900,000
	7	借入金	800,000
	8	資本金	10,280,000
12,980,000			12,980,000

作成後は資料をもとに貸借対照表・損益計算書を作成します。

貸借対照表・損益計算書には勘定科目ではなく表示科目を記載します。

例

勘定科目 仕入 → 表示科目 売上原価

勘定科目 売上 → 表示科目 売上高

【問題 14】

8桁精算表を作成する問題です。

精算表 (Work sheet) は会計に使用する計算書類の1つで、残高試算表に表示されている資産、負債、資本、収益、費用から損益計算書欄と貸借対照表欄を分離し、試算表欄とともに一覧表にした表です。精算表には6桁精算表、8桁精算表、10桁精算表があります。

- ① 勘定科目欄 期中の取引や決算整理仕訳で使用された勘定科目を記入します。
- ② 試算表欄 残高試算表の金額を記入します。
- ③ 修正記入欄 決算整理仕訳の金額を記入します。
- ④ 損益計算書欄 試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減して、残高を記入します。
- ⑤ 貸借対照表欄 試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減して、残高を記入します。

期末商品棚卸高は¥550,000である。と問題文にあるため
まずは売上原価の算定の仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	400,000	繰越商品	400,000
繰越商品	550,000	仕入	550,000

行った仕訳を修正記入欄に記入します。

精算表

勘定科目	試算表		修正仕訳		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,600,000							
当座預金	1,100,000							
売掛金	2,730,000							
繰越商品	400,000		550,000	400,000				
備品	7,000,000							
買掛金		1,900,000						
借入金		800,000						
資本金		8,000,000						
売上		11,750,000						
受取手数料		390,000						
仕入	9,000,000		400,000	550,000				
給料	950,000							
通信費	30,000							
支払家賃	20,000							
支払利息	10,000							
	22,840,000	22,840,000						
()								
			950,000	950,000				

記入後は試算表の金額を右にスライドさせながら、借方同士は+、貸方同士は+、借方と貸方、貸方と借方の場合は-をして損益計算書、貸借対照表に記入します。

そのあとは、当期純利益、若しくは当期純損失を算出します。

精 算 表

勘定科目	試算表		修正仕訳		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	1,600,000						1,600,000	
当座預金	1,100,000						1,100,000	
売掛金	2,730,000						2,730,000	
繰越商品	400,000		550,000	400,000			550,000	
備品	7,000,000						7,000,000	
買掛金		1,900,000						1,900,000
借入金		800,000						800,000
資本金		8,000,000						8,000,000
売上		11,750,000				11,750,000		
受取手数料		390,000				390,000		
仕入	9,000,000		400,000	550,000	8,850,000			
給料	950,000				950,000			
通信費	30,000				30,000			
支払家賃	20,000				20,000			
支払利息	10,000				10,000			
	22,840,000	22,840,000						
当期純利益					2,280,000			2,280,000
			950,000	950,000	12,140,000	12,140,000	12,980,000	12,980,000



学校法人 田村学園

横浜経理専門学校

解説作成者：教務部 伊澤 明

電話：045-453-5500

<http://www.tamura.ac.jp>